

## 研究課題名：子宮頸癌における卵巣転移のリスク因子を 探索するための後方視的研究

### 患者さま医療情報の研究利用について

婦人科悪性腫瘍の中で子宮頸癌は若年での発症数も多く、またその罹患数は増加傾向にあります。若い方の場合、治療で子宮全摘を行う際に卵巣摘出を同時に施行したり、術後に放射線治療を行うことで、卵巣機能が低下または廃絶し、術後長期的な影響として骨粗鬆症や心臓疾患を患ったり、糖尿病や認知症を合併するリスクが増える可能性が指摘されています。ですが、子宮頸癌手術の際に卵巣を温存することで根治性が損なわれてはならないため、どういった場合に卵巣を温存できるのかを把握する必要がありますが、現在のところ一定の見解はありません。そこで当院産婦人科では、当院で初回治療として子宮摘出を行い、最終病理検査所見で子宮頸癌と診断された症例に対し、腫瘍の大きさや拡がりなどの所見を調べ、卵巣を摘出された方についてはその後の卵巣再発の有無や予後を解析することにより、どのような対象に卵巣の温存が可能かどうかを検討するため、「子宮頸癌における卵巣転移のリスク因子を探索するための後方視的研究」（調査）を行うことと致しました。

調査対象となるのは当院で初回治療として子宮摘出を行い、2008年1月1日以降、2015年12月31日までに最終病理検査所見で子宮頸癌と診断された患者様です。本研究で調査する項目は、「年齢」「進行期」「妊娠分娩歴や月経歴」「組織型」「初回治療方法」「卵巣温存の有無」「卵巣転移の有無」「摘出病理検体の病理組織所見」「術後治療」「2018年7月31日現在の健否の状況」などで、これらの情報の保存・解析に際して、全ての患者様の情報は匿名化され、収集した情報は、外部に持ち出されることなく北里大学産婦人科で解析されます。氏名や住所などの個人情報解析に用いられることはございません。収集した情報は研究実施期間中は厳重に保管され、研究終了後（研究成果の最終公表から5年後）に処分されます。

今回の研究で得られた結果は、学会や雑誌などで報告されることがあります。公表に際して、個人情報が公表されることはありません。本研究の調査対象に該当する患者さまで調査に同意されない方はお申し出ください。その場合、その患者さまのデータは削除されます。ただし、既に研究結果が公表されている場合は、削除することができません。ご協力頂けなくても、今後の診療に一切の不利益はありません。また、本研究に関して、ご質問などがございましたら、下記の連絡先まで御連絡ください。

#### 連絡先

〒252-0375  
神奈川県相模原市北里 1-15-1  
北里大学病院産婦人科  
研究事務局：岩瀬春子 いわせはるこ  
研究責任者：恩田貴志 おんだたかし  
TEL: 042-778-8414  
FAX: 042-778-9433